



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 344

September 2019

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

銀行振込:三井住友銀行 神戸営業部 普通 8004770

郵便振替:01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2019年度第Ⅲ期開講

10月7日(月)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2019年度第Ⅲ期が開講します。

ドイツ語を学んでみたい、 またドイツ語をじっくりと学び直したい、

ドイツへ旅行に行きたい、 ドイツ人とドイツ語で会話を楽しみたい、

ドイツ語で小説を読んで楽しみたい、 ドイツの新聞を読んでドイツの今を知りたい、

留学・資格・キャリアアップを目指したい、 ドイツ語の資格試験に挑戦したい、

こんな希望に神戸日独協会のドイツ語講座は応えます。

ドイツ語の学習は、62年の伝統ある「神戸日独協会ドイツ語講座」で、「楽しく・ゆっくり・着実に」

神戸日独協会ドイツ語講座は、

✎ 関西で60有余年の最も長い伝統、最新の「外国語の学習のためのヨーロッパ共通参照枠」(CEFR)に準拠した授業内容

✎ 多彩なクラス

初歩から学べる初級クラス

総合的なドイツ語力をめざす総合クラス

ネイティブによる会話中心クラス

小説や時事記事を読む読解クラス

✎ 経験豊富な講師陣

ヨーロッパの外国語教育の基盤となっている「外国語の学習のための共通参照枠CEFR」に精通し、それに基づく授業を提供

✎ ドイツ語だけでなく、ドイツの日常や文化についても、協会主催の催し物を通じて学び、体験

開講授業の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

今年の秋は、駅からも近い教室で「ドイツ語体験」をしてみましょう。ご参加を、お待ちしております。

新企画

「対話で愉しむドイツの社会文化」

私たちはドイツへ行って自ら見たり参加することによって、あるいは日本でテレビ・書籍などによってさまざまなドイツ文化に接しています。ドイツの伝統ある、または現代的ないろいろなドイツ文化を社会文化的な観点から捉えて、それらの魅力に対して一層の理解を深めたいと思います。従来のように講演形式ではなく、日頃その文化に深い関心を持ち研鑽を積んでいる方々の対談あるいは鼎談形式でその文化の魅力を追求します。

すでにご存じのドイツ文化を改めて社会文化的現象として捉えることによって、新たな発見をしませんか。多くの方のご参加をお待ちしています。

(担当理事： 杉谷眞佐子、押尾愛子)

第1回 社会文化的現象としてみた「バイロイト音楽祭」の魅力

世界的に有名なワーグナー・オペラの祭典「バイロイト音楽祭」。日本でもファンは多く、NHKのBSプレミアムでも毎年放映されています。専門家のあいだでは既に多くのことが語られてきました。今回、神戸日独協会では少し趣向を変え、諸映像をもとに、この音楽祭を社会的現象として見た際の面白さについて、参加者の皆さんと自由に語り合いたいと思います。

例えば、初日、メルケル氏などの政治家や俳優など著名人がレッドカーペットの上を劇場へ向かう姿とそれを追うカメラ。そして厳かな開演風景。例年話題になる演出の多様性。複雑な舞台や演出がどのように創られていくのか？この「からくり」を紹介する番組が、分かりやすいドイツ語で子供向け番組として放映されました。この映像の紹介後、昨年と今年の初日を飾った“Lohengrin”および“Tannhäuser”の映像などをもとに、話題提供はオペラに詳しい押尾愛子さんです。ご存知のように問題とされた第二次世界大戦中のワーグナー一家の人々とヒトラーとの関係、そして戦後の再生への努力などもテーマになる予定です。

オペラや音楽の専門家でなくても愉しめるドイツの社会文化現象として、皆さまはどのようにご覧になるでしょうか？皆さま方のご参加をお待ちしています。(司会担当:杉谷)

対談者： 押尾愛子さん(話題提供)紹介

1977年に株式会社ユーハイム入社後、ドイツ店(フランクフルト)で3年間勤務(その後も度々長期出張)。その間ほぼ毎週オペラを見る。5年前にユーハイムを退職後は、毎年オペラを見にヨーロッパへ行く。今年はザルツブルク音楽祭とバイロイト音楽祭。

杉谷眞佐子さん(司会)紹介

専門はドイツ語教育・外国語教育政策。「外国語の学習のためのヨーロッパ共通参照枠」(CEFR)では、運用力を構成する一般能力中に外国の社会や歴史に関する知識が含まれている。異言語・異文化学習の統合、具体的には現代ドイツ社会・文化の学習と絡めたドイツ語学習を目ざす。関西大学名誉教授。

日 時： 2019年10月27日(日)14:00～16:00

場 所： 神戸日独協会会議室

参加費： 500円

申込み： 10月23日(水)までに事務局へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

☆ 先着30名で締め切らせていただきます。

第1回ドイツ菓子講習会のご案内

昨年度開催しましたドイツ家庭料理講習会シリーズに引き続きまして、今年度はそのお菓子編として、ドイツ菓子講習会を3回シリーズで計画しています。

第1回ドイツ菓子講習会は、昨年度も講師を担当して頂きました料理愛好家の北川玉恵さんと、ご友人でパティシエの高尾縁さんに担当して頂き、下記要領で開催します。

高尾縁さんは大学卒業後菓子作りの研鑽を積まれ、レストランでのデザート部を担当されたり、先日惜しまれつつ閉店した御影高杉にも勤務しておられました。

日 時： 2019年11月4日(月・祝) 13-17時 (12:45までにご集合ください)

場 所： うはらホールの料理教室

(JR 住吉駅すぐ南の、東灘区民センター8階) Tel:078-822-8333

参加費： 1000円と材料実費 (材料費の概算は追って参加者にお知らせします)

メニュー： 1 キルシュシュトロイゼルクーヘン (チェリーの焼き菓子)

2 パンプディング (ドイツ風パンプディング)

募集人員： 24名

申込み： 参加ご希望の方は、10月21日(月)までに、神戸日独協会事務局まで、電話・FAX・メールにてお申し込みください。

会員によるコンサートの出演者募集

昨年度に続き、今年度後半に会員によるコンサートの開催を以下の要領で予定しております。つきましては、会員の皆様からのご参加を募集いたしますので、ご希望の方はお申し出ください。よろしくお願い致します。

日 時： 2020年3月14日(土) 15時15分開場 15時30分開演

途中20分の休憩を入れて17時00分終演予定

場 所： 音楽ホール&ギャラリー里夢 (阪急六甲下車、山側へ徒歩約6分)

応募要領 来年はベートーヴェン生誕250周年に当たりますので、今回のコンサートのテーマはベートーヴェンといたします。

- ・ 参加者は会員及び会員が推薦する共演者
- ・ 一組の演奏時間は、約15分以内とします
- ・ 会員ボランティアによるコンサートですので、申し訳ありませんが出演の謝礼等はありません

応募締め切り 出演ご希望の方は、2019年9月27日(金)までに、神戸日独協会事務所に
電話・FAX・メール等で、演奏曲目、出演者名、使用楽器等をご連絡下さい。
4組の演奏を予定していますが、定数になり次第締め切らせて頂きます。

行事報告

ドイツビアフェスト2019

夏恒例の「ドイツビアフェスト2019」が7月28日(土)18時から「ビアレストラン ロイン三宮店」で
開催されました。

参加申込みの出足が悪く開催が懸念されましたが、60名余りの参加を得て、ケーラー総領事もご
出席して下さい、盛況なフェストでした。

清水裕子さんの司会で、会長と総領事の挨拶の後、お馴染みの平野新祐さんのアコーディオン伴
奏に合わせて次郎丸智希さんのリードで一回目の「Ein Prosit der Gemütlichkeit」を全員で歌
い、「Prost!」。隣の人と腕を組んでシュンケルンしながら、ジョッキを片手に、「Das Kufsteiner
Lied」、「Schöne Maid」等々ビアソングをみんなで歌っては、「Prost!」。引き続いて「Ententanz」、
「ムカデの行進」をしては、「Prost!」。同じテーブルの人と談笑し、今年はあちこちのテーブルから
ドイツ人との談笑でのドイツ語も聞こえていました。ご来賓のケーラー総領事も参加者との歓談の
みならず、一緒に合唱し、ダンスをし、行進に加わって下さり、そして今年も岩島佳子さんが参加さ
れ「Wien, du Stadt meiner Träume」など数曲を歌って下さり、参加者全員でGemütlichな一夜
を過ごすことが出来ました。

今年もまた歌唱リーダーとして、司会として、会を盛り上げ進行して下さい下さった次郎丸さんと清水さん
に、ワインを寄贈して下さい下さったローテ・ローゼの松田耕治さんに、会の参加記念としてジョッキのバ
ッチを作成してくれた柘田節子さんに、準備をして下さった方々にお礼を申し上げます。

今年は非会員の方々が多く参加してくださいました。毎年ビアフェストを楽しみに参加していただ
いているとのこと。それに反し、会員、講座受講者の参加が少なかったのが残念でした。

「花の博覧会」で黒崎勇元会長がミュンヘンの「オクトーバーフェスト」や「ビアホール」の雰囲気
を関西にも広めて以来、協会はその意思を継ぎ神戸東遊園地での3回の「オクトーバーフェスト神戸」
を主催者の一員として市民の皆さんと、この十年は夏の恒例行事として会員の皆さんと、ドイツの
ビール文化の一端の普及に努めてきました。何よりも我々が伝えたいのは Gemütlichkeit です。
テーブルを共にした者同士が旧知・未知とは関わりなく旧来の友人のごとくその場を楽しく過ごす
ことです。いわばミュンヘン版の「一期一会」です。またミュンヘンのオクトーバーフェストとビアホ
ールの多くではビアソングが、ウィーンのグリーンツィングではシュランメルンがあるように、人の集まり
とその場の飲物にふさわしい音楽があります。この雰囲気を共有したい、これも目的の一つです。
神戸日独協会は、ドイツをより好きになっていただくために、ドイツをより理解していただくために、
多様な催しやドイツ語講座とドイツ文化講座等を提供しています。協会の主旨をご理解していただ
き、今後とも各種催しと講座・教室などに積極的にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

今年も昨年に引き続き、異常高温、干ばつ、山火事、洪水、大型台風などによる甚大な被害が日本のみならず世界各地で発生しました。このような異常気象は、地球温暖化が原因だと久しく言われています。地球温暖化はCO2やメタンやフロンなどの大気中濃度の増加が原因であり、これは石炭や石油などの化石燃料(fossiler Brennstoff)を大量に消費する人間の活動に起因するとされています。温暖化を防止するために、再生エネルギーへの転換などのエネルギー改革、リサイクルを重視するライフスタイル変革等の取り組みが世界的に行われています。Deutsche Welleがこの夏に取り上げた地球温暖化防止に関する興味ある記事を紹介いたします。

Flygskam

理事 押尾 愛子

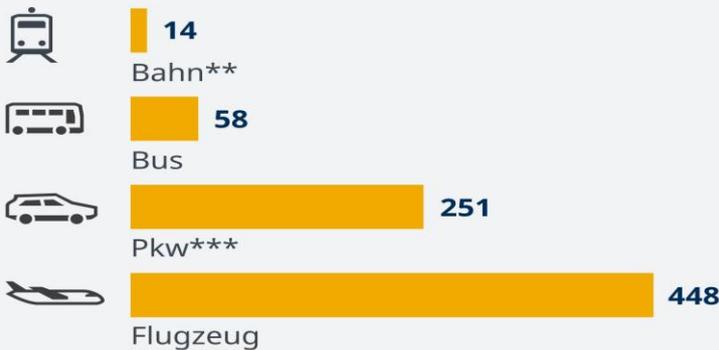
この言葉をご存じですかと、Deutsche Welle の記事を紹介しようと思っていたら、先日NHKニュースで取り上げられていた。

もともとはグレタトゥーンベリ Greta Thunberg という16歳のスウェーデンの少女が言い出した言葉で、ドイツ語にすると Flugscham、訳すと「飛行機は恥ずかしい」、つまり環境負荷の大きい飛行機での移動を避け、鉄道を利用しようという運動で、ドイツやフランスでも広がり始めている。NHKのニュースでは「飛び恥」と紹介されていたが、この奇妙な日本語、定着するだろうか？

5月末の欧州議会選挙での緑の党の圧勝が示す通り、今、ヨーロッパで最も勢いがあるのが、環境保護、中でも如何にして地球温暖化を防ぐかである。確かに、地球温暖化の一番の原因である二酸化炭素の排出量の違いを、下の図を見せて説明されると、ヨーロッパに住む人なら、夏の休暇に行くのに飛行機をやめて鉄道にしようかなと考えるかもしれない。

Verkehrsmittel im Vergleich

Emissionen in kg pro Person für 1.000 Kilometer*



*In CO₂-Äquivalent inkl. vorgelagerten Emissionen

**Strommix Österreich (78% Ökostrom)

***Besetzt mit 1 Person

Quelle: UBA Österreich 2018

©DW

交通手段の比較

1000km移動での一人当たりの排出量(kg)

★周辺への排出に含まれる二酸化炭素等価物における量

★★電気混合物(78%はエコ電流)

★★★一人の乗車

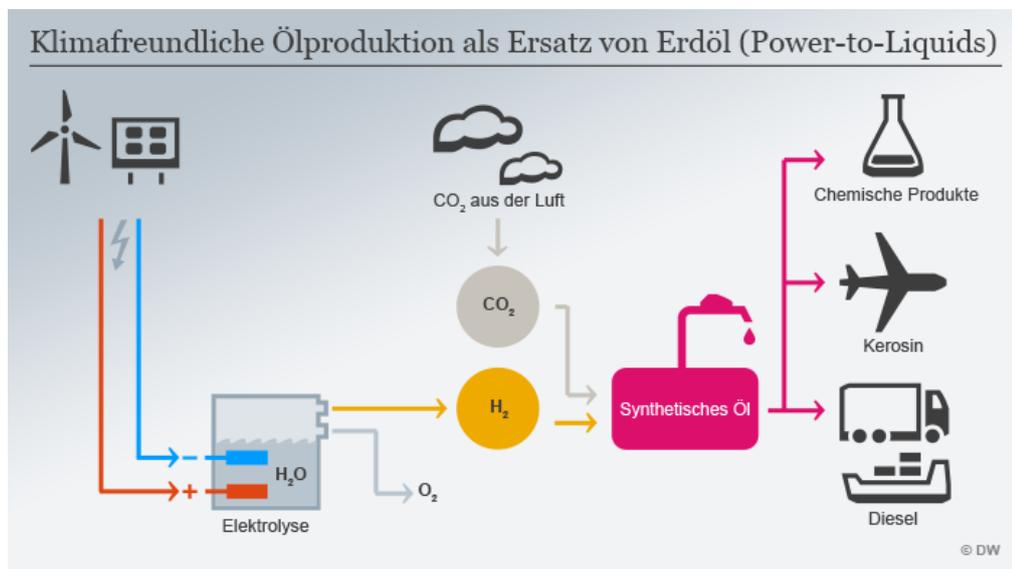
一方で、二酸化炭素の排出量の少ないバイオ燃料の開発なども進められているが、まだ実現には至っていない。今すぐできることが、飛行機をやめようという運動である。だから、飛行機でマイルを貯めて特典が付くなんてのもっての外、今すぐ廃止すべきだということになる。個人のレベルはともかく、会社も出張に飛行機でなく鉄道を優先すべきだと主張されると、さて、この先どうなることやら？

Deutsche Welle: Fliegen oder nicht fliegen? Klimafragen zur Urlaubszeit (24.06.2019)より

水、CO₂、電気から作られるバイオ燃料

山崎 竜司

気候温暖化を防ぐために、石油に代わる気候にやさしい代用品として“Power to Liquids PtL 合成液体燃料”が開発されている。この“Power to Liquids”という言葉で示される新しいバイオ燃料製造の原理は次のようなものである。



太陽光発電、風力発電などの再生可能エネルギーから作られた電力を使い、水を電気分解して水素を得る。その水素に大気中の二酸化炭素を合わせることで人工的に合成された原油 (synthetisches Öl) が作られる。この人工原油からは、従来の原油と同様にガソリンやその他の燃料を作ることができるというわけである。すでにこの人工原油の生産工場がドレスデンの会社によりロッテルダムやノルウェーで建設される予定となっている。この人工原油には従来の原油よりも値段が高いなどの問題もあるが、ドイツ連邦環境庁などの政府機関は人工石油に飛行機による環境負荷に対する一つの解決策としての期待を寄せている。

しかし、国際的なネットワークを持つ環境保護団体の“Stay Grounded (地上に留まる=飛行機を

利用しない)”は、新しいバイオ燃料が実用化されるのを待っている時間はないとして、人工石油に対して懐疑的である。彼らは飛行機のマイル制度の廃止や飛行機利用の多い人ほどチケット料金が高くなる段階制の航空料金を要求している。さらに、鉄道網を整備し、夜行列車の利用を増やすこと、出張の際の鉄道利用を勧めることなどを主張している。出張の際には働く時間よりも移動時間に費やされる時間の方が増えることになるが、環境的に持続可能な移動手段のためには仕方がないと言う。実際、Flugscham(飛行機は恥ずかしい)という言葉が生まれ定着したスウェーデンでは国内出張の鉄道利用数が21%増加し、それに対し国内線の飛行機利用の数は急に落ち込んでいる。海外への飛行機の利用数はわずかに上昇しているのだが。

Deutsche Welle: Fliegen oder nicht fliegen? Klimafragen zur Urlaubszeit (24.06.2019)より

気候温暖化による食料不足

柘田 義一

世界中の研究者たちの科学的知見から「気候変動の状況」を評価する報告書を作成して、国際的な地球温暖化(Erwärmung)問題の対応策を科学的に裏づけて、気候変動自体や対策のための政策・技術の実現性とその効果の判断をするための科学的な根拠を提供している国連の「気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change IPCC, Weltklimarat)」により、土地利用(Landnutzung) の気候変動への影響を核心とする報告書が8月8日に公表された。

この報告書では、土地の温室効果ガス(Treibhausgas)の発生源と吸収源としての役割が重視されている。人為的活動により排出される温室効果ガスのうち23%が農業や林業に由来し、土地利用の方法が気候に大きな影響を及ぼしているため、より良い土地管理が気候変動対策になると指摘している。

報告書によると、土地と森林は気候変動(Klimawandel)に対しては二酸化炭素(CO₂ Kohlendioxyd)が大気圏に達するのを防ぐ自然の貯蔵庫として機能しているため、劣化された(ausgelaugt)土地と弱められた森林は気候変動を激化させ、気候変動が再び森林と土地に好ましくない影響を与える悪循環を起こしている。現在の食料システム(Ernährungssystem)も気候変動にいかにか大きく与り、そして気候変動の結果にいかにか強く見舞われているかを示している。パリ協定で定められている2度以上に温暖化したら肥沃であった土地は砂漠化(Wüstenbildung)してしまい、干ばつ(Dürre)と異常気象(extremes Wetterereignis)が食料システムを危険にさらしてしまう。さらにCO₂濃度は食物の栄養価を減らすので、そのより高い濃度が食料品の質を損ね、世界的な食料安全保障(Ernährungssicherheit)を失わせることになる。現在約8億2100万人が空腹に苦しみ、10億1000万人が鉄分・亜鉛のような微量栄養素(Mikronährstoff)不足であると言う。世界中ですでに劣化してしまった約20億ヘクタールの土地を再び肥沃にし、より健康になった土地は多くを生産し、異常気象に抵抗力のなくなることがより少なくなり、安定した食料品供給がもたらされる。これとともに土地もより多くの炭素を受け入れ、土壌侵食(Bodenerosion)も防げられる。草地(Grasland)やステップのようなエコシステム(Ökosystem)が安定した気候にとって決定的に重要であると言う。

食料の生産・(加工)製造での排出量は、人為的起源の温室効果ガス総排出量の21～37%を占めると推定されている。さらに気候変動に基づいて食料の収穫量は下がり、それに応じて食品価格は上がり、世界の穀物価格は2050年までに23%まで上がるであろうと予測されている。報告書は現在の食料システムを維持するために我々消費者にも提言している。年間に生産された食料品(Lebensmittel)の三分の一が現在失われるか浪費されている。生産されたが飲食されなかった食料品だけで全部合わせて全世界の温室効果ガス排出量の8%になると言う。これへの対策として我々個人が出来ることは、何よりもごみバケツに行き着く大量の食料品の量を削減することである。「何を消費し、それをどのように消費するか」という自覚が大事である。そして消費者は「自分が食べる物は皿の上で生まれたものでない Das, was die Verbraucher essen, wird nicht auf einem Teller geboren.」ことに気付かねばならない。肉を食べると、その事は気候と土地にいろいろな影響を持つので、肉を食べるのをやめてアボカドを買っても、アボカドの栽培には大量の水を消費するので、これもまた影響を持つ。我々は食料品生産の影響について注意深い観察などの行動をして、消費者意識を高めねばならない。このことが長期間にわたるより健康的な土地とより健康な気候に至ることになると、国連勤務の Joseph Orr 氏は述べている。

Deutsche Welle: Weltklimarat warnt vor Nahrungsknappheit (08.08.2019)より

Deutsche Welle のお勧め

ドイツ連邦共和国の公共放送連合体が運営している国際放送事業体である Deutsche Welle(ドイチェ・ヴェレ)は、インターネットでサービス提供を行っています。website では DW-WORLD.DE がドイツ語を初め29か国語(日本語はない)で、ドイツ、世界、経済、文化、科学と環境、スポーツの項目ごと(現在は Brexist がエクストラとして加わっています)に Up-date な記事が日々更新され提供されています。これらの記事によって今のドイツを、世界の今を知ることが出来ます。

ドイツ語講座講読クラスでは毎週 DW-WORLD.DE の記事を読み、ドイツでは今何が関心の的になっているのか、ドイツを初めヨーロッパはアジア・日本をどのように見ているのかということの理解に努めています。これらに関心のある方はぜひ一緒にドイツ語を通して今のドイツを知ろうとしませんか。

更に、ドイツ総領事館のホームページ「広報・ドイツ語を学ぼう」のサイトからドイチェ・ヴェレ提供の「インタラクティブ・オーディオ・ドイツ語コース」を利用することが出来ます。一度チャレンジしてみませんか。

外国語の習得にとって大事なことは、当該外国語を自由に操ること(???)かもしれませんが、今のドイツにおける自分、今の日本における自分を互いに理解し合うことでしょう。そのためにも自分を取り巻く政治的・経済的・社会的・文化的その他の諸々の状況を正しく理解することに努め、互いの立場を理解して、交流に努めることが大事でしょう。そのためにも相手のことをいろいろな情報を助けにして理解をすることに努めましょう。もっと大事なことはそれらを範として今の日本を、そしてそこに暮らす自分を発信しましょう。そのきっかけとして一度 Deutsche Welle に触れてみませんか。

(神戸日独協会ドイツ語講座講読クラス担当 柘田)

ドイツ語談話室

第188回ドイツ語談話室

日 時 : 2019年7月20日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 野草

今回の司会は井川伸子さんが担当され、普段利用する野草は主に3種類があり、料理用のもの、薬用のもの、そして芳香を楽しむものがある話をされ、写真や絵図で例示された。また、参加者のおひとりが、自宅の菜園で育てられている10種近くのハーブを持参され、皆さんでその実物の姿と香りを楽しませて頂いた。

参加者の皆さんが好まれているハーブ類の話題には、以下のようなものがでた。

パセリ、バジル、ミント、ローズマリー、メリッサ、セージ、オレガノ、カモマイル、くるまば草、ハーゲブツテン、オオバコ、タンポポ、ユキノシタ、クローバー、せり、よもぎ、つくし、ユリ、すみれ、など。また、ドイツでは多種のハーブが好まれるが、その種類は地方によって大きく違うとの話も出た。

第189回ドイツ語談話室

日 時 : 2019年8月17日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : デモンストレーション

今回は、皆さんが持ち寄ったおつまみでビールを飲みながら、テーマのデモンストレーションについて話し合った。来日中のドイツ人一家の特別参加もあり、活発な談話室となった。

司会は、井川伸子さんが担当され、日本でも1960年代に日米安全保証条約に反対する国民の大規模なデモが繰り広げられた歴史を振り返られた。

参加者のテーマに関連して出た多くの意見・コメントから、紙面の都合上そのごく一部を紹介する。

- ・ライプチヒのニコライ教会前で始まった平和の小さなデモが、その後ドイツ再統一につながった。
- ・スウェーデンの少女が、気候変動対策を訴えた不登校デモが、世界の若者の共感を呼んでいる。
- ・ドイツの小さな町でも、風力発電施設に対する賛否で、住民がそれぞれの立場でデモをしている。
- ・香港のデモに対しては、中国政府が軍隊を出動させそうで、とても気がかりである。
- ・正当な意見表明であるデモが、暴力的にならない様に、参加者個人個人の自己責任が大きい。
- ・日本人はデモに対して、攻撃的、みっともない、出しゃばりといった少しネガティブな見方がある。
- ・正式なデモは、申請・許可の上行われるが、SNSでの意見表明は無許可・無責任で危険を孕

む。

今後のドイツ語談話室の予定

第190回 2019年 9月21日(土) 14-16時 テーマ : 外国人との共生

第191回 2019年10月19日(土) 14-16時 テーマ : 環境保護

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 188. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 20. Juli 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Kräuter

Dieses Mal hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung und erwähnte, dass gewöhnlich drei Arten von Kräutern Verwendung finden, nämlich solche fürs Kochen, solche, die als Heilmittel dienen, und solche, die als Aromen verwendet werden. Sie zeigte Fotos und Zeichnungen mit Beispielen verschiedener Sorten.

Eine Teilnehmerin brachte ca. zehn verschiedene Kräuter mit, die sie in ihrem Garten angebaut hat.

Während der Gesprächsrunde wurden unter anderem folgende Kräuter näher besprochen: Petersilie, Basilikum, Minze, Rosmarin, Melisse, Salbei, Oregano, Kamille, Waldmeister, Hagebutten, Wegerich, Löwenzahn, Steinbrech, Klee, Brunnenkresse, Beifuß, Ackerschachtelhalm, Lilie, Veilchen.

In Deutschland erfreuen sich verschiedene Kräuter großer Beliebtheit, es gibt geschmackliche Unterschiede je nach Region.

Protokoll der 189. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 17. August 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Demonstration

Zu dieser Gesprächsrunde hatten die Teilnehmerinnen und Teilnehmer Kleinigkeiten zum Essen mitgebracht. Eine deutsche Familie, die sich gerade auf Besuch in Japan aufhielt, hat auch an der Gesprächsrunde teilgenommen und lebhaft mit uns das Thema der Runde besprochen. Dieses war diesmal: Demonstrationen. Die Gesprächsleiterin, Frau Nobuko Ikawa, erwähnte die großen Demonstrationen in den 60er Jahren in Japan, die sich gegen den Sicherheitsvertrag der USA mit Japan richteten.

Folgende Beispiele von Demonstrationen wurden besprochen:

-Eine anfangs kleine Demonstration für den Frieden vor der Nikolaikirche in Leipzig

wurde zu einer treibenden Kraft für die Wiedervereinigung Deutschlands.

-Mit ihrer Demonstration gegen die globale Erwärmung in Form einer Ablehnung des Schulbesuchs hat ein schwedisches Mädchen weltweit Aufmerksamkeit und Zustimmung gefunden.

-In einem kleinen Dorf in Deutschland fanden Demonstrationen der Einwohner für und gegen den Aufbau eines Windkraftwerks statt.

-Die großen Demonstrationen in Hong Kong lassen eine militärische Intervention Chinas befürchten.

-Demonstrationen unterliegen oft der Gefahr in Gewalt umzuschlagen. Die Eigenverantwortung aller Teilnehmerinnen und Teilnehmer ist gefragt.

-In Japan werden im Allgemeinen Demonstrationen eher negativ aufgenommen, als ein Akt der Aggressivität und Dreistigkeit etc.

-Eine Demonstration muss angemeldet werden. Das Thema muss auch bewilligt werden. Mit SNS werden jedoch Meinungen ohne derart Anmeldeverfahren verbreitet und unterliegen keiner Kontrolle. Soziale Netzwerke bergen hierin auch Gefahren.

Nächste Treffen

Samstag 21. September 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Zusammenleben mit Ausländern

Samstag 19. Oktober 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Umweltschutz

9月実行委員会のお知らせ

9月の実行委員会にて2019年度下半期の協会活動、協会設立80周年行事について協議をしますので、実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日時： 9月15日(日)15時～

場所： 神戸日独協会会議室

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は11月14日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
9月15日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
9月21日(土) 14:00~	第190回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
10月19日(土) 14:00~	第191回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
10月27日(日) 14:00~	対話で愉しむ ドイツの社会文化	神戸日独協会 会議室	10月23日(水)
11月4日(月・祝) 13:00~	第1回ドイツ菓子講習会	うはらホール の料理教室	10月21日(月)